

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査日時 令和4年4月19日(火)

3 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査事項

- (1) 児童・生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科（4年ぶり）〕（原則、調査学年の前学年までに含まれる指導事項）
質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- (2) 学 校：質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

5 教科調査の結果と分析

(1) 全体の傾向

【平均正答率＝%】 ※（都との差）は市教育委員会で追記した数値

対象学年 教科名（問題数）	小学校 第6学年			中学校 第3学年		
	武蔵野市（都との差）	東京都(公立)	全国(公立)	武蔵野市（都との差）	東京都(公立)	全国(公立)
国語(14問・14問)	73 (+4)	69	65.6	76 (+6)	70	69.0
算数(16問)・数学(14問)	73 (+6)	67	63.2	65 (+11)	54	51.4
理科(17問・21問)	69 (+4)	65	63.3	58 (+7)	51	49.3

○全教科のほぼ全ての問題で全国、東京都の平均正答率を超えた。思考・判断・表現の問題に着目すると、小学校は国語8.5、算数10.9、理科7.0ポイント、中学校は国語8.9、数学15.4、理科9.8ポイントほど全国平均正答率よりも高い結果となった。

○記述式の問題も、小学校は国語5.7、算数9.7、理科6.4ポイント、中学校は国語8.5、数学15.4、理科12.6ポイントほど全国平均正答率より高く、各校の思考を深める問いの工夫や、説明・話し合い等の言語活動の工夫の成果が見られた。

(2) 今後の授業改善につなげたい問題の正答率と指導の方向性

※（ ）内は無回答率

教科名		出題の趣旨	武蔵野市	東京都(公立)	全国(公立)
国語	小	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けられること。(記述式)	40.3 (14.5)	39.0(17.4)	37.7(14.5)
	中	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。(記述式)	48.5 (4.2)	43.8(7.6)	46.5(9.0)

○小学校では、低学年で「内容や記述に見られる具体的なよさ」、中学年で「書こうとしたことの明確さ」、高学年で「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見付けられるよう、系統的に指導することが大切になる。

○中学校では、引用の際に引用箇所をかきかっことでくくること、出典を明示すること、適切な量とすることなど確認し、その目的や効果を考えられるように指導することが大切になる。

算数・ 数学	小	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること。(選択式)	35.5 (1.4)	29.1(1.4)	21.4(1.1)
	中	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができること。(記述式)	55.1 (13.3)	41.8(21.2)	38.4(24.4)

○小学校では、日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導することが大切になる。

○中学校では、表、式、グラフなどの「用いるもの」とそれらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実することが大切になる。

理科	小	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できること。(記述式)	43.1 (11.0)	37.0(12.6)	35.1(11.2)
	中	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみること。(記述式)	58.6 (16.0)	44.3(28.3)	43.3(29.4)

○小学校では、問題に対する予想や仮説を基に解決の方法を発想し、実験等の結果を分析・解釈し、結論の根拠として表現できるように指導することが大切になる。

○中学校では、実験結果の処理について振り返り、例えば測定する間隔や範囲などの改善の視点を明確にした上で実験の計画を検討して改善する学習活動を充実することが大切である。

6 質問紙調査の結果と分析 【回答＝%】

(1) 言語能力の育成について（言語活動、読書活動）

①5年生（中学1、2年）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

	小学校			中学校		
	発表していた・どちらかといえば発表していたの合計	発表していなかった・どちらかといえば発表していなかったの合計	考えを発表する機会はなかった	発表していた・どちらかといえば発表していたの合計	発表していなかった・どちらかといえば発表していなかったの合計	考えを発表する機会はなかった
武蔵野市	74.2	23.4	1.9	78.4	20.3	1.1
東京都（公立）	70.3	27.8	1.8	73.4	24.9	1.7
全国（公立）	65.4	32.6	2.0	63.3	34.2	2.4

○「発表していた・どちらかといえば発表していた」と回答した児童・生徒は70%以上を超える。特に「発表していた」と答えた児童・生徒は国語の平均正答率が80%を超えている。今後も国語科を中心に、考えを説明する、討論、プレゼンテーションなどの言語活動の充実を図っていくことが重要となる。

○一方で、ごく一部に「考えを発表する機会はなかった」と捉える児童・生徒がいる。小学校では平均正答率が他の児童よりもかなり低い結果となっており、個別の支援が必要である。

②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

	小学校			中学校		
	2時間以上、1～2時間、30分～1時間の合計	10分～30分、10分より少ないの合計	全くしない	2時間以上、1～2時間、30分～1時間の合計	10分～30分、10分より少ないの合計	全くしない
武蔵野市	49.0	32.6	18.1	33.6	33.9	32.0
東京都（公立）	41.4	35.0	23.6	28.6	36.3	35.0
全国（公立）	36.4	37.3	26.3	27.3	33.6	39.0

○不読率が小・中学校共に全国・東京都の平均よりも低く、特に小学校では20%以下になっており、50%近くの児童が30分以上の読書に取り組んでいる。しかし、中学校では33%に留まっているほか、全国・東京都・本市ともに、読書量の増加と各教科の平均正答率は比例しておらず、継続的に推移を分析する必要がある。

○今後も、様々な種類の本にふれることができるように学校図書館の充実を図ることや、学習者用コンピュータと共に情報センターとしての学校図書館の活用を推進することが重要である。

(2) 情報活用能力の育成について（情報モラル、ICT活用）

①携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

	小学校				中学校			
	きちんと守っている、だいたい守っているの合計	あまり守っていない、守っていないの合計	約束はない	持っていない	きちんと守っている、だいたい守っているの合計	あまり守っていない、守っていないの合計	約束はない	持っていない
武蔵野市	77.0	7.3	7.5	7.7	72.5	10.8	13.4	3.0
東京都（公立）	74.8	5.8	9.9	9.5	71.5	9.3	16.5	2.6
全国（公立）	71.5	5.9	11.2	11.4	69.5	8.1	18.2	4.1

○小・中学校共に「きちんと守っている」の割合は全国・東京都よりも低いが、「だいたい守っている」まで含めた肯定的な回答の割合でみると、小学校は77.0%、中学校は72.5%である。全国・東京都より高い数値となり、7割以上の児童・生徒が家庭での約束を守ろうとしていることが分かる。

○学習者用コンピュータの活用が進む中で、自律的に使う姿勢が徐々に児童・生徒に育まれてきたといえる。

②普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を読みますか。

	小学校				中学校			
	4時間以上、3～4時間の合計	1～2時間、2～3時間の合計	1時間より少ない	全くしない	4時間以上、3～4時間の合計	1～2時間、2～3時間の合計	1時間より少ない	全くしない
武蔵野市	16.7	42.6	25.4	14.8	22.8	41.8	19.4	15.6
東京都（公立）	26.8	43.8	19.4	10.0	29.1	41.2	16.9	12.6
全国（公立）	30.7	45.4	16.4	7.5	29.8	41.5	16.7	11.9

○テレビゲームの使用が「1時間以下」、あるいは「全くしない」と回答した児童・生徒が小学校は40.2%、中学校が35%となっており、全国・東京都の平均よりも高い。

○3時間以上使う子の割合が一定数いる。特に「4時間以上」の使う子は「全くしない」の子と比べて最大30ポイント以上平均正答率が低くなっており、適切な使用時間について家庭と連携した指導が必要である。

③5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

	小学校				中学校			
	ほぼ毎日	週3回以上、週1回以上の合計	月1回以上	月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上、週1回以上の合計	月1回以上	月1回未満
武蔵野市	54.3	41.2	2.2	1.9	9.5	72.6	13.3	4.2
東京都（公立）	31.5	55.9	8.7	3.7	20.7	62.8	12.1	4.3
全国（公立）	26.7	56.5	11.5	5.1	21.6	59.0	14.2	5.0

○小学校では、54.3%の児童が「ほぼ毎日」と回答しており、全国・東京都よりも大幅に高い。中学校では、「ほぼ毎日」の解答が9.5%に留まる。全国学力学習状況調査はCBT化（Computer Based Testing）する意向であり、文房具の一つとして学習者用コンピュータのさらなる活用が求められる。

○「調べ学習」「友達との意見交換」「考えの発表・まとめ」など、場面別の活用に関する質問に関しては「友達との意見交換」での使用が、小・中学校共に他と比べて低くなっている。Google クラウドスライドやジャムボードの活用、スライドやドキュメントの共同編集などのアプリケーションを積極的に活用していきたい。

(3) 市民性の育成について（自立、協働、社会参画、探究的な学習過程）

①将来の夢や目標を持っていますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	58.5	21.1	10.4	9.9	40.2	25.0	17.8	16.7
東京都（公立）	58.6	19.9	10.9	10.4	37.8	27.6	19.4	15.0
全国（公立）	60.4	19.4	10.3	9.9	39.8	27.5	19.1	13.4

○武蔵野市民科では自立に関する資質・能力として「自己理解、自己管理」を掲げている。実践例として中学校の職場体験、小学校の職業人へのインタビューなどが行われている。今後も、自分自身の振り返りや友達からのアドバイス等を通して今後のキャリアについて考えたり、第一線で活躍している職業人との交流から仕事のやりがいや生き方へのあこがれ等を高めたりしていきたい。

②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	21.0	36.5	25.4	16.9	12.0	28.3	34.7	24.8
東京都（公立）	18.2	32.0	30.8	18.8	11.0	28.1	35.6	25.2
全国（公立）	17.6	33.7	31.2	17.4	11.1	29.6	36.5	22.6

○武蔵野市民科では、社会参画に関する資質・能力として「公共心、社会連帯の自覚」を掲げている。実践例として、フィールドワークを通して地域のよさや課題について調べ、新しい取組を商店や関係者にプレゼンテーションする、関係者と連携して広報誌を作成・配布する、職場体験で企業のSDGsに関する取組を調べる、ポスターセッションや市長への提言などの取組が行われている。引き続き、各学校や地域の特色、児童・生徒の興味・関心を生かして地域のよさ等を発見し、「発信・実行」する学習過程を大切にしていきたい。

③総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	41.0	39.6	14.4	4.8	31.1	47.2	15.5	5.9
東京都（公立）	36.6	39.1	18.9	5.2	30.4	45.4	18.8	5.2
全国（公立）	31.7	41.0	21.4	5.8	28.4	43.7	21.6	6.2

○小学校80.6%、中学校は78.3%が肯定的な回答をしており、全国よりも高い結果となった。武蔵野市民科は主に総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントとして、探究的な学習過程を形成している。引き続き、児童の興味・関心を生かし、フィールドリサーチを含めた調査方法や学習者用コンピュータを活用した表現方法の工夫、年間通した探究の深まりなどを改善していきたい。

(4) 多様な人々が共に生きる社会の担い手としての資質・能力の育成について（自尊感情、多様性、道徳教育）

①自分には、よいところがあると思いますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	51.0	32.9	10.4	5.5	39.7	37.8	13.4	8.9
東京都（公立）	43.0	37.1	12.5	7.3	38.0	40.5	14.6	6.9
全国（公立）	39.4	39.9	13.5	7.2	36.0	42.5	14.9	6.6

○小学校 83.9%、中学校は 77.5% が肯定的な回答をしている。各学校では、日々の授業や学校行事など様々な場面で児童・生徒のよさを引き出している。今後も児童・生徒の努力や取組に対する称賛や価値付けなどを積極的に行っていきたい。

②自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	33.1	37.5	21.0	8.3	33.3	42.2	18.4	5.9
東京都（公立）	31.7	40.5	20.2	7.5	32.6	44.1	18.4	4.8
全国（公立）	30.4	43.1	19.9	6.5	31.4	45.5	18.6	4.3

○小・中学校共に「当てはまる」の割合は全国、東京都よりも高いものの、「どちらかといえば、当てはまる」の割合が低く、否定的な回答の割合がやや高い。普段の授業や学級活動を通して、多様な意見を出し合い、認め合う学習活動をより積極的に取り入れていきたい。

③道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	48.0	35.7	11.6	4.3	38.8	43.9	11.4	5.5
東京都（公立）	42.5	37.3	14.8	5.1	45.4	42.1	9.3	2.9
全国（公立）	42.5	37.5	14.9	4.9	43.0	42.5	10.9	3.4

○小・中学校共に 80% 以上の児童・生徒が肯定的な回答をしており、各学校での「考える道徳」「議論する道徳」に向けた授業改善が進んでいると言える。今後も、児童・生徒の考えを深めることができるよう、発問の工夫や、やり取りを通じた意見の深化、学習者用コンピュータの活用による意見分布の視覚化など工夫をしていきたい。

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援について（いじめの防止、悩み相談）

①いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	76.2	18.3	4.1	1.2	75.0	17.8	3.9	3.1
東京都（公立）	81.1	14.9	2.8	1.1	78.9	16.3	3.3	1.4
全国（公立）	83.9	12.9	2.2	0.9	82.6	13.8	2.5	1.1

○大多数の児童・生徒がいじめは絶対許せない行為であると認識している。各校での日常的な声掛けやいじめ防止基本法方針のポスター活用、道徳科等における指導など様々な取組の成果と言える。しかし、否定的な回答の割合が小・中学校ともに全国・東京都よりやや高くなっている。

②困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

	小学校				中学校			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
武蔵野市	34.0	30.9	18.7	16.1	26.4	30.9	23.8	18.8
東京都（公立）	37.6	30.9	19.5	11.9	31.7	33.8	21.6	12.9
全国（公立）	35.5	32.6	20.2	11.6	32.5	34.1	21.7	11.7

○小・中学校共に、肯定的な回答の割合が全国・東京都より低く、否定的な回答が 3～4 割いる。各学校では定期的なアンケート調査やスクールカウンセラーによる面談等を実施しているが、(5) ①の結果と合わせて、一人一人の悩みをじっくりと傾聴し、共に解決していこうとする姿勢を示していくことが一層重要となる。